

【テーマ】 SDGsに基づき衣料企業が取り組むべき目標

【授業概要】

気候変動や環境破壊、労働者の人権、過剰な在庫、大量廃棄など、ファッションを取り巻く課題は実に多い。各企業は経営の軸として、「持続可能」は欠かせないものとなっている。ファッション分野に山積みされている課題を、個別の事業、また他者との協働によってどのように解決できるかが重要な鍵となっている。

本授業では、ICTを活用してファッション・アパレル分野と環境（SDGs）に関する課題・問題点についてのデータを収集する。その結果に基づいて、今後のファッション分野は、環境問題とどのように関わるべきか、モデリングやシミュレーションを通して考える。ファッション産業とSDGsを手がかりに、各ファッション業界が2030年に向けて打ち出している目標を整理し、「つくる責任」「使う責任」をキーワードに、問題発見・解決を模索する。そして、これからの未来に向けて、SDGsとアパレル業界はどのように関わるべきなのか、また、使う責任（消費者）としてもその取り組み方を提案する。

学修活動は、数名（5~6名）のチームを編成して実施する。対象学年は、3年生、授業回数は4回（90分×4週）とし、Zoomによる同時双方向、オンライン形式で実施する。

- ・ **1 コマ目**；ファッション業界におけるSDGsの課題と取り組み状況を検討する。問題発見・解決には、1コマ目であらかじめ取り組む問題解決の領域（テーマ）を決めておくこと議論が進め易い。分野の一例として、「CO2排出ゼロを目指す」「水使用の大幅削減」「廃棄物ゼロのパターンメーカー」「ファッションとサステナビリティ」などを提案したい。
- ・ **2 コマ目**；問題解決のための資料収集や調査が的確にできているかを確認し、収集データの分類し分析をする。問題発見・解決として、十分な説明資料が揃っているか、グループ内で検討する。また、関係するグループとも協働し、互いの考察内容を高めることも重要である。
- ・ **3 コマ目**；具体的な問題発見・解決としての結論の総まとめと再確認。課題ごとの解決策の重要ポイントの整理が重要となる。
- ・ **4 コマ目**；グループ内の見解を履修者全員で共有し、グループ間でのディスカッションを実施する。そして、未来のために、今、私たちは何ができるのか考察する。

【授業の到達目標】

- ・ 問題発見・解決のために、被服学の知識を生かしてその枠組みが説明できる。（目標A1）
- ・ 問題を発見し、問題解決のための枠組みに基づき、具体的解決策に取り組み、計画を進めることができる。（目標A2）
- ・ 調査内容に適した複数の情報を整理し、それらを比較することにより情報の信頼性を判断でき、内容の説明ができる。（目標B1）
- ・ IoTやAIなどの進展を利用して、さらに専門知識を活用しながら事例を検証することができる。（目標C2-1）
- ・ 複雑な背景のもとで生ずる問題解決に対しても、チーム活動を通して取り組み、適切な問題発見・解決ができる。（目標A3）

【学修活動の詳細と対応する到達目標】

	授業内容・学修活動	到達目標
1	<p><b>ファッション産業と環境（SDGs）に関する課題・問題点を調査する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題発見・解決を思考する目標を設定し、枠組みに基づいて調査方法を決定する。調査内容の一例として、「SDGsがアパレル業界にもたらす影響」「衣生活における“つくる責任・つかう責任”」「衣服構成時における布廃棄の減少化」生分解素材の開発」「AIとアルゴリズムの活用と廃棄物ゼロ化への試み」などが考えられる。</li> <li>調査結果の整理・体系化、問題点の認識と調査結果の妥当性を確認する。</li> </ul>	<p>A2 B1 B2 B3</p>
	<p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファッションと環境問題を整理し、SDGsに貢献する取り組みを考える。</li> <li>各企業の取り組み状況を各分野別に確認し、目標達成における課題整理を行う。</li> </ul> <p><b>【授業の流れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チーム分け後、Zoom上でのブレイクルームにおいてチーム毎に作業する。メンバーとルーム割り当ては、ランダムに決定、自動作成も活用して運営。</li> <li>チーム内で事前学修の成果を議論し、ディスカッションする。</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで大量生産・大量消費へ向けて「舵」を切ってきたファッションは、今後、人間が着用する衣服としてSDGsとの関わりでどうあるべきかを議論する。</li> <li>ファッションにおけるSDGsの課題を確認し、目的達成に向けた「つくる責任」「使う責任」としての問題点を整理する。</li> </ul>	
2	<p><b>ファッション業界でリサイクルからリペアへの転換が重要視されている理由も踏まえ、3Rの今後を考える（reduce,reuse,recycle）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査データに基づき、ソフトなどを活用して目的達成に向けてシミュレーションできる。</li> <li>与えられた課題に対するデータ収集の方策を決定できる。</li> <li>チームごとに与えられた課題解決に向けて、将来予測が可能であるとともに問題点が指摘できる。</li> </ul>	<p>A3 B2 B3 C2-1 C2-2</p>
	<p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間外での協働作業はZoomを活用し、チーム毎に目的達成に向けた課題を確認する。</li> <li>具体的事例を整理する。3Rの今後を考える上での問題点を整理する。</li> <li>チーム内で事前学修の成果を議論し、ディスカッションする。</li> </ul> <p><b>【授業の流れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Zoom上でのブレイクルームにおいてチーム毎に作業する。</li> <li>チーム毎に問題点の確認と進行状況をチェックする。結果を効率的に方向づける為、教員は各チーム巡回が重要。</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時でのまとめと、問題点の整理。次回への課題整理。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後学修を利用し、次回への課題を整理する。</li> </ul>	
3	<p><b>これまでの調査結果について、参加者全員を対象に報告会を実施。各チームの発表内容を共通理解し、課題確認を行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた課題に対する解決結果を的確に考察でき、今後の情報社会の在り方について説明できる。</li> <li>チームごとに与えられた課題解決に向けて、将来予測が可能であるとともに問題点が指摘できる。</li> </ul>	<p>A3 C2-2</p> <p>C3</p>
	<p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在までの検討結果について、各チームからの報告会実施。各チーム相互で、意見交換し、課題確認とまとめの修正をチーム毎に行う。</li> <li>チーム内で事前学修の成果を議論し、ディスカッションする。</li> </ul> <p><b>【授業の流れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsに基づき、衣料関連企業が取り組むべき目標を確認。</li> <li>消費者としての取り組み目標を確認</li> <li>企業と消費者、双方で何か可能か、整理確認する</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめ、課題整理。事後学修の時間を利用して、最終報告の確認。</li> </ul>	
4	<p><b>SDGsとファッションは、今後、どう関わるべきか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内の見解を履修者全員で共有し、他のグループとのディスカッションを実施する。そして、未来のために、今、私たちは何ができるのか考察する。</li> <li>バイオマテリアルとAIによる衣服づくりの可能性について、ディスカッションできる。</li> </ul>	<p>A3 C2-2</p> <p>C2-2</p>
	<p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時間までに議論してきたことの整理をチーム内で行い、テーマ毎に整理確認する。2030年に向けての目標を議論する。</li> <li>チーム内で事前学修の成果を議論し、ディスカッションする。</li> </ul> <p><b>【授業の流れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本授業での最終報告会実施。</li> <li>SDGsを取り入れることでのファッション業界が得られることの確認。 (ファッション業界がSDGsを取り入れることのメリットを明確化)</li> <li>チーム毎に纏めてきたこれまでの議論を成果報告する。これを受けてのディスカッション。</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表と討論の結果を踏まえて、各自の衣生活見直し、SDGsへの取り組みを明確にする。振り返りシートのLMS経由提出。</li> </ul>	

**【評価】**

学習成果は、ルーブリックに基づいて行い、問題発見力・構想力問題解決力情報活用能力、チームワーク力を中心に評価する。事前課題テスト30点、期末テスト50点、課題調査と発表20点とし、ルーブリック採点。60点以上を合格とする。

